

2. 調査結果と考察

今回の調査では、釣川水系（淡水域）でこれまでに確認されている魚種 18 種（サケを除く）のうち本流で 8 種、支流全体で 12 種、全体で 14 種が出現した。釣川水系における本流の各調査地及び各支流における出現魚種をまとめて表 9-8 に示した。各調査地において出現した魚種を図 9-9 に示した。

ニッポンバラタナゴは、本流の田久橋近辺、支流の山田川の中流部（メッシュ No65 支流については以下同様に示す）で、特に後者においては 10 匹以上採集された。いずれも稚魚で、ニッポンバラタナゴとしたが、タイリクバラタナゴが混じっている可能性もある。更に検討する必要がある。両採取地ではイシガイやドブガイが多数確認されたので、繁殖も行なわれているものと思われる。

ドジョウとウナギは今回採集できなかった。ドジョウは数年前、山田川中流部の稲

元で採集して以来ほとんどみかけず、メダカ調査時に数多くの溝を手網で探したが全く出現することはなかった。これらのことよりドジョウは宗像において絶滅に近い状況にあると思われる。ウナギについてはこれまでも時折みかけたので、数は減少しているが生息していると判断される。

メダカは本流の東郷橋辺り、支流の山田川 (No65)、横山川 (No73) 辺りに中集団 (50匹程度) が複数みられた。

その他、これまでの調査では生息域が限られていて、ここ数年ほとんど確認できなかったタカハヤは、従前同様大穂川の源流部 (No13/14) で比較的多数確認できた。また、以前は釣川水系のいたるところで採集できたモツゴは、最近ほとんどみかけなかったが、今回、宮川 (No68) のみで採集された。カマツカは山田川 (No65) のみで採集されたが、本流の田久橋近辺でもみかけたので、本流、支流の砂礫底及び砂底の部分で調査すればかなりみつかるものと思われる。オイカワは田久橋近辺のみ、ナマズは山田川 (No64) のみの出現であったが、これまでの調査結果から本流や支流のそれぞれ広がりのある場所や淀みでかなり確認できるといえる。

カワムツ、コイ (人為的に放流されたものを含め)、ギンブナ、ドンコは依然として広い範囲に分布している。ただ、釣川本流の田久橋から東郷橋にかけて以前はギンブナの多くの集団をみかけたが、今回行った土手上からの観察では、集団数が減っていた。このことは本流における底生動物のユスリカが激減していたことと関係があるのかもしれない。

ヨシノボリは、以前考えていた以上に多くの場所、本流田久橋、東郷橋 (No63)、支流の名残川 (No47)、綿打川 (No15) 及び山田川で出現し、またそれには2型あるように思える。今後詳細な調査検討が必要であろう。カムルチーは東郷橋辺りで50cm以上の大型のものを確認したが、この場所は以前から出現する場所であったので、依然として生息していることがわかった。オオクチバス、ワタカ、ボラは釣川本流の下流部に生息するため今回の調査法では確認不可能であった。東郷橋以下の本流での調査が必要である。ブルーギルは、大井川 (No62) のみの出現であったが、いろいろな情報を合わせると宗像にはかなり分布しているようにも思える。